af News
公益財団法人 旭硝子財団
2010年9月
第39号

〒102-0081　東京都千代田区四番町５－３　サイエンスプラザ２階
TEL (03) 5275 － 0620　FAX (03) 5275 － 0871
URL http://www.af-info.or.jp
E-MAIL post@af-info.or.jp

平成 22 年度 研究助成金贈呈式

旭硝子財団は，６月９日午後，関係者列席のもとに研究助成金贈呈式を開催しました。会場は，昨年と同じ経団連ホールです。冒頭，田中理事長の挨拶，宮﨑照宣選考委員長による選考経過についての説明があり，続いて理事長から助成金受領者の方々へ贈呈状が手渡されました。

引続き，山口 敏・文部科学省研究振興局学術研究助成課長のご祝辞をいただきました。

最後に，助成金の受領者を代表して松田 修・九州大学助教からご挨拶があり，式典を終えました。

その後，別会場で懇親パーティーが行われました。

本年度，国内で新規に採択された助成研究は78件，これに過年度からの継続分30件を合わせると，国内の助成総額は２億7,900万円となります。

本年度の新規助成研究の一覧は，当財団のホームページ（平成22年度採択一覧）に掲載されていますので，ご参照ください。

2010 旭硝子財団 助成研究発表会

7月27日，市ヶ谷駅前にある「ホテルグランドヒル市ヶ谷」において，国内助成研究74件（全分野）の発表会を開催しました。当日は朝から夕方までの長時間にわたり，発表者をはじめ現在研究助成を受けている研究者や当財団の選考委員，ご来賓など，多くの関係者にご出席頂きました。

冒頭，田中理事長の挨拶に引続き，宮崎選考委員長（東北大学教授）から開催にあたっての趣旨説明があり，続いて，それぞれの分野ごとに3分間の口頭発表とポスターによる研究発表が行われました。

昨年と同様，研究期間を終えたプロジェクトの成果発表だけでなく，助成金額が大きく，かつ複数年度にわたる研究助成プロジェクトについて中間発表も実施し，残された研究期間にどのような取り組みをすべきかという観点からのディスカッションが行われました。

それぞれのポスターの前では，専門分野の異なる研究者同士による活発な意見交換が行われ，非常に有意義な場となりました。

発表終了後には同じ会場で懇親会が開かれ，参加者全員による交歓が行われました。

ご出席者の方々，運営にご協力くださったすべての方々に，改めて感謝申し上げます。

宮崎選考委員長

3分間スピーチ発表会場

田中理事長

ポスター発表会場

懇親会場

海外研究助成金贈呈式ならびに成果発表会

８月３日にタイのチュラロンコン大学において，次いで５日にはインドネシアのバンドン工科大学において，研究助成金贈呈式ならびに助成研究の成果発表会を開催しました。

タイ・チュラロンコン大学

８月３日，チュラロンコン大学キャンパスの本部棟 Jamjuree Buildings にて，研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。田中理事長からの挨拶，Pirom 学長による開催の辞に続いて，今年度の助成対象者 12 名に贈呈状の授与が行われました。Suwabun 助教授による記念講演に引き続き，3 つのセッションに会場を分けて，合計 14 件の研究成果が発表されました。

助成金受領者とチュラロンコン大学関係者，旭硝子財団関係者

贈呈状を授与する
田中理事長

記念講演

インドネシア・バンドン工科大学

８月５日，バンドン工科大学（ITB）の講堂において，研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。ITB 研究渉外担当副学長の Wawan 教授，田中理事長の挨拶に続いて，助成対象者 11 名に贈呈状が授与されました。研究成果発表は，昨年度に採択された研究助成 11 件について行われました。材料やシステムの研究だけでなく，本年も災害防止，植物中の有用抽出成分の研究といったインドネシアの自然環境にかかわる成果が発表されました。

贈呈状を授与する
田中理事長

Wawan 副学長

成果発表会での
プレゼンテーション

地球環境問題を考える懇談会

「生存の条件ー生命力溢れる太陽エネルギー社会へ」

旭硝子財団では，理事会や評議員会を構成する識者が議論を交わして，市民（シビル・ソサイエティ）に向けて，急速に悪化しつつある地球環境問題の現状について理解してもらうための情報提供をするとともに，現世代がこの問題に対してどのように対処していけばよいのかということについて問題提起をしようという企画を立てました。

こうして生まれた「地球環境問題を考える懇談会」は2006年12月に第1回を開催し，2009年11月まで計8回にわたって開催されました。

「生存の条件 - 生命力溢れる太陽エネルギー社会へ」は，懇談会の最終報告書としてデータ集とともに5月に1万部が刊行され，全国の図書館，希望された一般の方々への配布を行うとともに，当財団のホームページよりダウンロードできるよう設定されました。

また一方，その普及版である「生存の条件 - 生命力溢れる地球の回復」は，8月から信山社を通じて一般書店で1冊1,000円で市販されています。また，昨年に刊行された中間報告書と同じく，全国の高等学校に寄贈しました。

第6回 地球環境問題を考える役員・評議員懇談会（2008年12月25日開催）

市販中の普及版

各国で注目される環境危機時計®

モンテネグロ

モンテネグロの環境NPOである*Climate Change AGF*の代表ミラスロフ・レイセビッチ氏は，本年4月，アドリア海に面したBudvaで開催された博覧会The 16th Ecology Fairにおいて，モンテネグロ・日本友好協会と協力して旭硝子財団の活動を紹介するとともに，環境危機時計®に関する展示を行いました。会場にはモンテネグロの環境大臣も見学に訪れ，見事に優秀賞を受賞しました。

レイセビッチ氏

JADRANSKI SAJAM
BUDVA

Dodjeljuje

POHVALU

izlagaču

NVO „DRUŠTVO CRNOGORSKO - JAPANSKOG PRIJATELJSTVA"
Nikšić

za izuzetan sajamski nastup
na manifestacijama

5. Sajam vode - vodovodi - sanitarne tehnologije
16. Sajam ekologije

Budva, 23.04.2010.

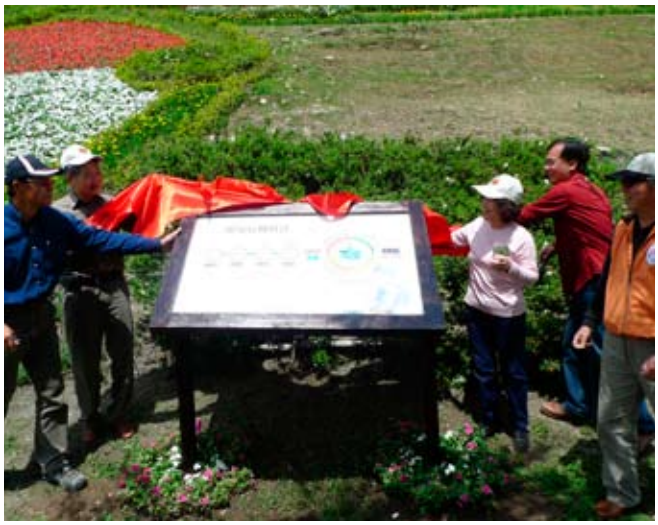
優秀賞の賞状

Gvozdenovic 環境大臣とFairに参加した子供達

台湾

統一超商株式会社(台湾セブンイレブン)は，台湾セブンイレブンが運営する好鄰居文教基金会などと協力し，本年4月17日に台湾南投県の高原で植樹活動を行いました。

この植樹活動の一環として環境危機時計®を草花で形づくり，その隣に告示板を設置して，環境問題の重要性を台湾の人々に伝えました。



台湾南投県 清境農場のミニスイスガーデンに設置された環境危機時計®と告示板

第19回ブループラネット賞 受賞者紹介

6月17日(木),田中理事長,吉川弘之選考委員長,鮫島専務理事が出席し,経団連会館において第19回地球環境国際賞「ブループラネット賞」の受賞者記者発表を行いました。本年度の受賞者はNASAゴダード宇宙科学研究所ディレクターのジェームス・ハンセン博士と,英国 環境・食糧・農村地域省(DEFRA)チーフアドバイザーのロバート・ワトソン博士のお2人です。

受賞者の選考は昨年6月に始まり,世界中のノミネーターから受賞候補者の推薦を受け,選考委員会での審査,顕彰委員会での審議を経て,本年4月の理事会・評議員会で受賞者が決定されました。

ジェームス ハンセン博士

NASAゴダード宇宙科学研究所ディレクター
コロンビア大学地球環境科学科客員教授

【受賞理由】

大気の放射エネルギーを表す“放射強制力”の概念を基に,気候変動問題の分析,将来の予測に先鞭を付けた。1950~60年代の太陽や火山活動による気温低下が目立った時代に,気候モデルに基づき“将来の地球温暖化”を予見しその対策を求めた。米国議会で証言し,地球温暖化の危険性をいち早く世に知らしめ,1℃の地球平均気温上昇でさえも,回復不能な気候変動が生じ地球の生命に破壊的な結果をもたらす可能性が高いことを警告した。ハンセン博士は気候変動の影響を縮小・緩和するために直ちに行動するよう,政府及び広く一般に働きかけ,今までにない規模の国際的協調の必要性を訴えている。

ロバート ワトソン博士

英国 環境・食糧・農村地域省(DEFRA)チーフアドバイザー
イーストアングリア大学ティンダールセンター環境科学議長

【受賞理由】

NASA在職中に,オゾン層を巡る地球環境保全に先人的な役割を果たした。その後,気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の議長として第3次報告書のとりまとめ,科学と政策の間の橋渡しに力量を発揮し,気候変動枠組み条約(UNFCCC)や京都議定書の国際的合意を大きく促進した。また地球環境ファシリティーの科学技術助言パネルの初代議長や世界銀行その他の要職を歴任した他,米国クリントン政権の科学技術政策局の環境副部長として,環境保全のために米国議会で数十回に渡る証言を行い世界に環境問題の重要性を訴えた。世界の科学者と政府を糾合し気候変動/地球環境問題対応に邁進している。

第19回ブループラネット賞「表彰式典」ならびに「受賞者記念講演会」

第19回受賞者をお招きして,『表彰式典』を,10月26日(火)に東京會舘において,また『受賞者記念講演会』を10月27日(水)に国際連合大学ウ・タント国際会議場で開催いたします。